人物風土記

日本を代表するお祭りに

● 今月17日（日）大師地域で行われる
第16回水鳥の祭で和睦の舞を披露する

舞川扇彩（せんさい）さん

川崎区伊勢町在住　58歳

題字は
阿部孝夫市長

○…時は1648（慶安2）年、大師河原の開拓に成功し、名主となった池上太郎右衛門幸広とその一族15人が江戸の医者で儒学者の茨木春朔とその仲間17人の間で壮烈な酒飲み合戦を繰り広げた。この物語を記した「水鳥記」を再現したのが水鳥の祭。生まれ育った川崎の文化、歴史を多くの人に知ってもらいたいと5人の実行委員で祭りを立ち上げ今年で16回目を迎える。祭りの台本を書き、演出を手がける。

○…祭りは時代衣装を身にまとい、侍に扮した江戸方と、どてら姿の川崎方に分かれる。江戸方は東門前駅前通商店街を練り歩き、川崎方は若宮八幡宮から川崎大師駅や大師駅前商栄会ごりやく通りなどを歩く。両者は、川崎大師平間寺境内で出会いそこで直径約50cmの盃で日本酒を飲み合う酒合戦を繰り広げる。祭りの最大の見せ場だ。自身は江戸方のメンバーの一員として出演し、最期には両者引き分けの印として若宮八幡宮の境内で「和睦の舞」を演じる。古典舞踊の長唄から始まり、途中で洋楽を加え見ている人も華やかに楽しんでもらえる日本舞踊を行う工夫を凝らす。

○…日本舞踊舞川流家元でもある。6歳の頃、母親の勧めで日本舞踊の世界に入った。着物が着られたことや、三味線を聞くことが楽しいと夢中で稽古に励んだ。幾多の困難もあったが多くの人の協力により41歳のときに舞川流の家元に。三越劇場などでも公演を行った。舞踊家として着実にステップアップを図るものの「今はまだ夢半ば。目指すは、多くの人に日本舞踊に触れて身近に感じてもらい、未来に日本の伝統を繋げていければ」と語る。

○…祭りは外国人にも人気で、侍に扮した出演者と記念撮影をする人も多い。当日の出演者の飲みっぷりは圧巻。多い人で7合を一気に飲み乾す。希望者は飛び入り参加も可能。「最近はお酒を楽しむだけに来る人がいるが、お祭りも楽しんでもらいたい」と語る。

不登校児支援講演会

▽内容＝保護者や地域子育て支援者を対象にした不登

10月24日(日)

花と緑に触

花と緑をテーマに様々な催しを行う「あおぞら花市」が今月24日(日)、幸区役所前庭で開催される。時間は、正午から午後3時まで（雨天順延）。

会場では、花苗や園芸用